

[成果情報]イノシシ捕獲における従事者の課題

[要約] わな猟免許所持者を中心にイノシシ捕獲従事者の確保や育成が図られているが、個人ごとの捕獲実績に隔たりが大きく、捕獲技術の底上げが必要である

[キーワード] 鳥獣被害対策、イノシシ、捕獲技術、従事者一人あたりの捕獲実績、技術向上の必要性

[担当] 長崎県農林技術開発センター・研究企画部門・研究企画室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 総合・営農

[分類] 行政

[作成年度] 2016 年度

[背景・ねらい]

長崎県ではイノシシによる農業被害等の軽減のため、狩猟免許所持者の確保、箱わななどの捕獲用具の整備、ICTを活用したセンサー式のわなや電気止め刺し器などの新技術の導入、狩猟免許所持者を中心に免許を持たない者も共同で捕獲作業を進める捕獲体制整備（捕獲隊の設置）など、イノシシ捕獲に関する人材の確保育成や機材導入が進められて来た。その結果、年間3～4万頭のイノシシを捕獲し、農業被害軽減等が図れているものの、市街地等へのイノシシ出没など、限られた人員や体制の中で更なる捕獲強化が求められている。

また、一方で狩猟免許の新規取得者のうち、3割近くの者が免許取得3年後の更新時に狩猟免許更新を行わないという研究データが発表されている。

そこで本研究では狩猟免許所持者のうち、農業被害等の対策としてイノシシの有害鳥獣捕獲に従事する者の個人ごとの捕獲実績を分析することで、従来の狩猟免許取得の新規性による区分だけではなく、捕獲実績に基づく従事者ごとの捕獲技術の客観的な区分を捕獲実績で行い、どの対象層に捕獲技術の向上を働きかけることが有効か提言を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 本県におけるイノシシの捕獲は狩猟ではなく、被害対策を目的とした有害鳥獣捕獲により実施されており、年間3～4万頭の実績で高止まり状態にある（図1）
2. 有害鳥獣捕獲を行う従事者は、わな猟免許所持者を中心に構成されており、このわな猟免許所持者の増加により、狩猟免許所持者も増加している（表1）
3. 有害鳥獣捕獲の従事者1,634名のうち、捕獲実績がない者が440名、年間捕獲実績が10頭以下の者が56.5%を占めている
（狩猟免許所持者の延べ人数は3,297名）
4. 有害鳥獣捕獲の従事者の最大捕獲数は564頭、一人当たりの平均は22.4頭であった
（捕獲実績のない従事者を除いた場合の平均捕獲数は30.7頭）

[成果の活用面・留意点]

1. 狩猟免許取得の促進や技術向上研修に加えて、捕獲隊の設置推進による捕獲現場における技術向上をさらに強化する必要がある
2. 捕獲技術向上研修においては、狩猟免許新規取得者だけではなく、捕獲実績の少ない従事者を対象とした技術の底上げを行うとともに、年間10頭以上を捕獲する従事者に対して上級者向けの研修開催も検討する必要がある
3. 狩猟免許を所持しているものの有害鳥獣捕獲に従事していない（できていない）従事者も少なくないことから、有害鳥獣捕獲への積極的な参加呼びかけも今後の課題と考えられる

[具体的データ]

捕獲数(百頭)

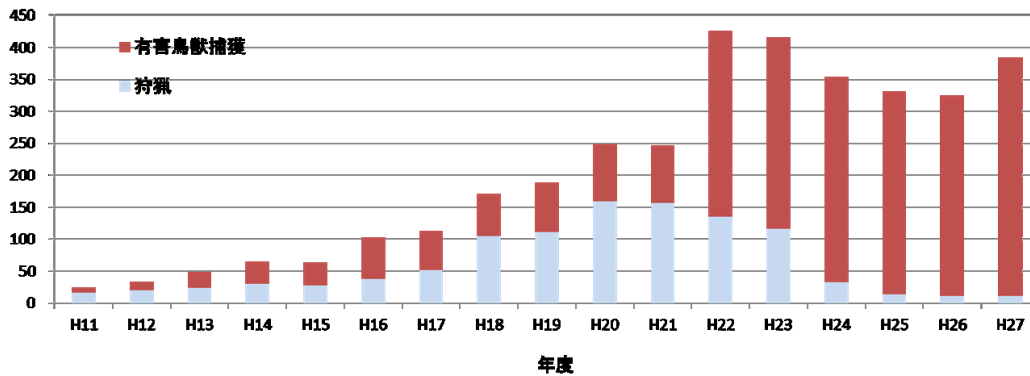


図1 長崎県におけるイノシシ捕獲数の推移

表1 狩猟免許所持者数の比較 (H15、H21、H27)

免許種別	H15 年度	H21 年度	H27 年度	H27/H15
網	905 名	133 名	126 名	—
わな		1,625 名	2,445 名	2.70
1 銃 (装薬銃)	1,107 名	848 名	702 名	0.63
2 銃 (空気銃)	35 名	18 名	24 名	0.69
計	2,047 名	2,624 名	3,297 名	1.61

平成 18 年度から網猟とわな猟の免許を分離

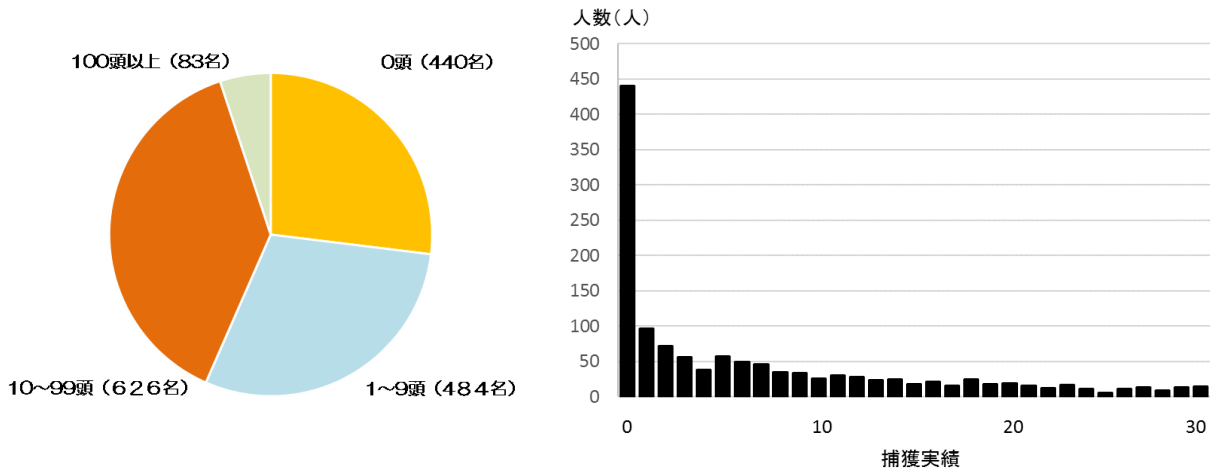


図2 捕獲従事者ごとの年間のイノシシ捕獲実績 (H27 年度 有害鳥獣捕獲)
左図：捕獲実績ごとの従事者数、右図：捕獲実績が年間 30 頭以下の従事者数の詳細

[その他]

研究課題名：イノシシ、ニホンジカ等の適正かつ効率的な捕獲個体の処理および完全活用システムの開発

ICT を用いた総合的技術による、農と林が連動した持続的獣害対策体系の確立

予算区分：国庫（環境研究総合推進・地域戦略プロ）、県単

研究期間：2016 年度

研究担当者：平田滋樹、神田茂生、岩永亘平（農山村対策室）